

第2・3学年 国語科学習指導案

日時 平成21年10月9日(金)5校時

児童 第2学年 男4名 女2名 計6名

第3学年 男6名 女4名 計10名

指導者 高橋 多鶴子(T1) 千田 さやか(T2)

第2学年

- 1 単元名 あいてにわかるようにせつめいしよう
- 2 教材名 中核教材「一本の木」(光村図書)
補助教材「うごく虫をつくろう」(学校図書)

3 単元について

(1) 児童について

2年生は、1学期前半に「たんぼのちえ」において、説明文の読み方や時間的な順序を中心に読み取りながら基礎的な学習を行った。ここでは、教材文を時間の順序で場面分けをして、紙芝居をつくり発表する活動に取り組んだ。次に説明文「サンゴの海の生きものたち」の教材を使い、生き物同士の共生の関係を読み取ることや、文章や写真とを見比べながら読み取る学習を経験してきた。この単元では、「虫のひみつを巨大リーフレットで説明しよう」というゴールを見通し、わかりやすく伝えようと大変意欲的に取り組んだ。このときは、リーフレットを書き、これを基にして説明できるように、主語と述語を書き抜いて一つの文にまとめたり、時を表す言葉にサイドラインを引いたりして順序よく読む学習方法を経験している。リーフレットを書き説明する言語活動を通したことで「初めに」「次に」「このように」等の言葉から時間的な順序や事柄の順序を読み取る力や相手を意識して伝えようとする力が付いてきた。だが、話の大筋をつかみながら文章の全体を読む力を十分に付けることはできなかった。

記述式問題の解答からは、初めて読む説明文での主語と述語の关系到気を付けて話の大体を読む力が弱いことが分かっている。2年生においては既習事項を活用して順序を考えながら話の大体を読み取る力をつける段階にある。また、課題解決するために、交流の進め方や対話の方法など指導者が話し合いに入りながら指導を行っている最中である。

第3学年

- 1 単元名 食べ物ブックを作ってせつめいしよう
- 2 教材名 中核教材「すがたをかえる大豆」(光村図書)
「食べ物のはかせになろう/本で調べる」
補助教材「そだててあそぼう ダイズの絵本」
(農山漁村文化協会)

3 単元について

(1) 児童について

3年生は、1学期前半に説明文の教材を使い、説明文の読み方や場面毎の詳細な読み取りをしながら基礎的な学習を行った。ここでは、2年生の内容を想起させるために、順序に気を付けて紙芝居をつくって発表する活動に取り組んだ。その次に説明文「ありの行列」の教材を使い、問いを受けて実験・研究の事実と作者の考えを含めて答えを導いている仮説検証型の説明文を読む学習を経験してきた。この単元では「生き物のひみつを巨大リーフレットで説明しよう」というゴールを見通し、伝える相手やリーフレットの字数の条件を意識しながら大変意欲的に取り組んだ。このときは、リーフレットを書き、これを基にして説明ができるように、引用の仕方や要約の方法を学んだ。ここでは、グループで、わかりやすく伝えるため、読んだことを書いてまとめようとする力と、相手の説明を聞いて、いいところを認め合える力が身に付いてきた。だが、主教材「ありの行列」での引用・要約の仕方、中心文の見つけ方の学習方法が身につけていなかったため自力で中心となる文と段落のつながりに注目しながら読む力を十分に付けることはできなかった。

記述式問題の解答からは、説明文での要点の読み取りや接続語の適語補充の問題の解答率が低いことが分かっている。3年生においては、中心となる語をとらえて段落相互の関係を考え、読む力と目的や必要に応じ文章などを引用したり要約したりする力をつける段階にある。また、課題解決するために視点にそって交流できるように話型の準備や進行役への個別指導を行っている最中である。

(2) 教材について

この単元は、学習指導要領第1・2学年「読むこと」の内容の「イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。」「エ 文章の中の大事な言葉を書き抜くこと。」を受けて設定した。

中核教材「一本の木」は、身近な木の書き方を文章と挿絵を用いて説明している文であり、児童が絵と合わせた説明をする活動に容易に取り組める最適の教材の一つといえる。木の書き方もおもちゃの作り方も、順序を表す言葉を使って説明と絵を対応させて説明していることに気付かせるために補助教材「うごく虫をつくろう」を取り扱うことにした。また、単元の「ひろげる段階」で、ペアでおもちゃの作り方を説明するときに参考に目的もあるため、補助教材「うごく虫をつくろう」を選んだ。

この単元に関連する工作の作り方の本や、関連図書もブックリストとして用意し読書の環境も整え、説明の様々な表現様式に触れさせたい。

(3) 指導にあたって

この単元の言語活動の柱は、「相手にわかるように説明するために、おもちゃの作り方を説明した本や文章を読むこと」である。ここでは、事柄の順序に気を付けて読む力を付けるためにおもちゃの作り方を音声表現で説明する活動を取り入れた。

単元の導入では、おもちゃの作り方を1年生に教えて「おもちゃ祭りをしよう」という見通しを児童と共に立てる。「ふかめる段階」では、教材文と補助教材文の比べ読みを通して事物の説明の表現様式を学習する。ここで、事柄の順序の説明の仕方や、写真と説明を対応させる方法を学ぶ。「ひろげる段階」では、ペアで選んだおもちゃの作り方の本や図鑑を読ませる。そして、個々におもちゃづくりの説明カードを作成する。その時は、1年生に分かるようにするために、順序を表す言葉や文章の中の大事な言葉を書き抜いたり書き足したりしながら作らせる。それから、その説明カードを基にして1年生に話して伝わる説明になるように、「順序よく説明しているか」「絵や写真・実物と対応させて説明しているか」「長さや数などを明確にして詳しく説明しているか」を交流の視点として話し合い、友達の説明の仕方のよさを伝え合ったりさせる。

本単元では、自分の説明で1年生がおもちゃを作ることができるよう相手意識をもち順序よく説明できるような姿を目指したい。

(2) 教材について

この単元は、学習指導要領第3・4学年「読むこと」の内容の「イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。」「エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み文章などを引用したり要約したりすること。」を受けて設定した。

中核教材「すがたをかえる大豆」は、児童にとって身近な大豆やその加工食品について書かれた解説型の説明文である。また、段落構成やキーワード等が明確で要約などの学習に適しており、後に取り組む書く活動の参考例ともなる教材である。補助教材の「ダイズの絵本」は調べ学習で使う図鑑をどのように読んで文章に表現するかという方法を学ぶために選んだ。

単元の「ひろげる段階」では、一人一人が食べ物に関係する本を探して調べたい事柄を選び出し、文章や図にまとめてから伝え合う活動を組みやすいように関係図書をブックリストにして用意した。

(3) 指導にあたって

この単元の言語活動の柱は、「自分で文章にまとめたものを説明するために、説明している文や図鑑を読むこと」である。ここでは、中心となる語を捉えて段落相互の関係をおさえて読む力をつけるために調べたことを説明し表現のよさや意見を述べ合う活動を取り入れた。

単元の導入では、昨年度の3年生が取り組んだ「食べ物のひみつ発表会」で書きまとめた説明書をモデル提示する。そのときに他校の3年生から感想をもらった手紙を見せて説明をして伝えることのよさや大事な点を話し合わせながら本単元の見通しをもち学習課題と計画を児童と共に立てる。「ふかめる段階」では、教材文で解説型の説明文の表現様式を学ぶ。また、食べ物に関する図鑑を読んで文章に表現する方法も学ぶ時間を設定した。「ひろげる段階」では、他の学校の3年生に伝えるために、個々で図鑑や本を読み、必要な情報を調べて引用や要約しながら書きまとめ、個々の考えの形成を図る。その後、個々が書いた説明書（食べ物ブック）を基に読み合い、交流を通じて友達の説明の仕方のよさを伝えたりアドバイスし合ったりさせる。

本単元では、同じ学習をしている他の小学校の3年生に納得してもらえるように相手意識と目的意識をもち順序よく書きまとめて説明できるような姿を目指したい。

4 単元の目標と仮説との関わり

(1) 目標

書き方や作り方を説明する仕方に興味をもって読み、事柄の順序や説明の仕方を工夫しながら伝えようとしている。

[関心・意欲・態度]

聞き手がおもちゃの作り方がわかるような説明ができるように、事柄の順序、段落、絵と文章の関連に着目しながら読むことができる。

[読むこと イ]

相手に応じて、話す事柄を順序立てて話したり、大事なことを落とさないようにしながら聞いたりすることができる。

[話すこと・聞くこと ア・エ]

主語と述語との関係に注意し、使うことができる。

[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(カ)]

(2) 単元と研究仮説との関わり

手立て1との関わり

<考える力>

- ・事柄の順序がわかる言葉にサイドラインを引くことと挿絵が示す文を囲むことで、必要な情報を取り出し、個々がおもちゃの説明の仕方を考えることができるであろう。(能力系統表3と5)

<交流する力>本時との関わり

- ・一人一人が書いた説明カードを基に、ペアで説明したり聞き合ったりし、お互いに質問したり説明のよさを認め合ったりすることで伝え合う力がつくだろう。

(能力系統表24)

手立て2との関わり

<単元構想>

- ・「おもちゃ祭りを開こう」～あいてにわかるように、せつめいしよう～という言語活動を通して事柄の順序を考えながら絵と文の関連に着目し内容の大体を読む力が付くであろう。
- ・推敲段階で、交流を取り入れたり、1年生に話して伝えたりするという活動を取り入れることで、自分の思いや考えを伝える力が育つであろう。

4 単元の目標と仮説との関わり

(1) 目標

食べ物について書かれた読み物や図鑑などを興味をもって読み、表現の工夫に気付いて、聞き手に伝えようとしている。

[関心・意欲・態度]

聞き手が自分の調べた内容がわかるような説明ができるように、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係に着目しながら読むことができる。

[読むこと イ]

書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うことができる。

[書くこと イ]

指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うことができる。

[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ク)]

(2) 単元と研究仮説との関わり

手立て1との関わり

<考える力>

- ・中心となる語や文を囲むことと、段落相互の関係を図に書き表すことで、説明文を読むための情報の取り出しができ、引用や要約をしながら調べたことをまとめることで、説明の仕方を考えることができるであろう。

(能力系統表6と17)

<交流する力>本時との関わり

- ・一人一人が書いた文章を基に、ペアで説明し合ったり聞き合ったりし、お互いの説明のよさを認め合ったり意見を述べ合ったりすることで伝え合う力がつくだろう。

(能力系統表29)

手立て2との関わり

<単元構想>

- ・「食べ物はかせになるう」～食べ物ブックを作って説明しよう～という言語活動を通して、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係に着目しながら読む力が付くであろう。
- ・取材活動に交流を取り入れたり、推敲場面で書いた説明書を音声表現で説明したりする活動を意図的に設定することで、自分の思いや考えを伝え合う力が育つであろう。

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度		読む能力		言語についての知識・理解・技能	
第2学年	第3学年	第2学年	第3学年	第2学年	第3学年
<ul style="list-style-type: none"> 書き方や作り方を説明する仕方に興味をもって読み、事柄の順序や説明の仕方を工夫しながら伝えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 食べ物について書かれた読み物や図鑑などを興味をもって読み、段落構成や説明の仕方を工夫して伝えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手がおもちゃの作り方がわかるような説明ができるように、事柄の順序、段落、絵と文章の関連に着目しながら正しく読み取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手が自分の調べた内容がわかるような説明ができるように中心となる語や文をとらえて段落相互の関係に着目しながら正しく読み取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 主語と述語の関係、問いかけ・答えに係する言葉を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 指示語や接続語の役割や問いかけ答えに係する言葉を理解し、使えるようにする。

6 単元指導計画と評価計画

第2学年			第3学年			
具体的評価規準	本時の目標	時	段階	時	本時の目標	具体的評価規準
<ul style="list-style-type: none"> 支援を要する児童への手立て 						<ul style="list-style-type: none"> 支援を要する児童への手立て
<ul style="list-style-type: none"> 話し手と同じような絵が書けたわけを考え、説明で大事なことに気付き積極的に発表している。 (発表・様子) 国語ファイルを見せながら、既習事項を振り返らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 二つの絵描き歌を聞き比べ、どちらの絵描き歌が、話し手が伝えようとした絵が描けたかその理由を話し合う。説明するときの表現様式に気付き学習課題をつくることができる。 これまでの学習を振り返ると共に、将来説明の仕方がどのように役立っていくのかを知る。本単元での伝えたい相手を決めて学習計画を立てることができる。 	1		1	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の3年生の取り組んだ言語活動をヒントにして、調べたことを説明するときの表現様式について話し合い学習課題をつくることことができる。 これまでの学習を振り返ると共に、将来説明の仕方がどのように役立っていくのかを知る。本単元での伝えたい相手を決めて学習計画を立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> モデル提示された説明文の書き方の工夫について積極的に発表している。 (発表・様子) 国語ファイルを見せながら、既習事項を振り返らせる。
<ul style="list-style-type: none"> 順序を表す言葉に注目し文章と絵を対応させて読んでいる。 (ワークシート) 段落ごとに書いてある教材文と絵のカードを書き組み合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「一本の木」を読み、事柄の順序を絵と対応させて読むことができる。 	3 ・ 4		3 ・ 4	<ul style="list-style-type: none"> 「すがたをかえる大豆」を読み、接続語の使い方や段落相互の関係をおさえて読むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 接続語に注意しながら段落相互の関係をおさえて読んでいる。 (ワークシート) 段落構成を表や図に表して、視覚的に段落相互の関係をおさえる。

<p>順序を表す言葉に注目し文章と絵を対応させることを理解して表現している。</p> <p>(発言・説明カード)</p> <p>・実際に作っている過程の実物を見せながら作り方の順序を押さえさせる。友達の説明の仕方をヒントにさせる。</p>	<p>・「うごく虫をつくろう」を読み、事柄の順序と写真を対応させながら読むことができる。</p>	5	ふかめる	5	<p>・「すがたをかえる大豆」と「ダイズの絵本」を読み比べ、共通点と相違点を出し合い、説明の文章の書き方を知る。</p>	<p>筆者の目的や意図によって表現の仕方が違うことを理解して表現している。</p> <p>(発言・説明文)</p> <p>・説明順、文体の違い、見出しのつけ方を比べさせる。話し合いから友達の考えをヒントにさせる。</p>
	<p>・「うごく虫をつくろう」の説明カードを作ることができる。</p>	6		6	<p>・図鑑を読んで、文章に書きなおす方法を理解し、取材カードを書くことができる。</p>	
	<p>・説明カードを基にしながらか説明することができる。説明の仕方を聞き合い、よいところを伝えたり分からないことを質問したりすることができる。</p>	7 ・ 8		7 ・ 8	<p>・取材カードを基にしながらか説明する文を書くことができる。説明の仕方を聞き合い、よいところを伝えたり分からないことを質問したりすることができる。</p>	
<p>友達の説明のよさを認め合っている。</p> <p>(発言・ワークシート)</p> <p>・前時にまでに学習した内容の掲示物を振り返らせる。(説明のポイントと既習内容の説明カードを掲示したり、ワークシートに記述したりしておく。)</p>	<p>・自分が説明したいおもちゃの作り方の図鑑を読み、おもちゃ作りの過程の写真と説明カードを対応させる。</p> <p>・主教材で学習した内容を想起しながら、順序を表す言葉を使い、絵と文章が対応するように説明カードを書く。</p>	9 ・ 10	ひろげる	9 ・ 10	<p>・食べ物の本を読み、自分が説明するテーマを決め、メモをとりながら情報を集めることができる。</p> <p>・主教材で学習した内容を想起しながら、自分が調べたことや考えたことをまとめて、説明文を書く。</p>	<p>既習内容を想起しながら、説明文を書くことができる。</p> <p>(発言・ワークシート)</p> <p>・前時にまでに学習した内容の掲示物を振り返らせる。(説明のポイントと既習内容の要約文を掲示したり、ワークシートに記述したりしておく。)</p>
	<p>・友達の説明を聞き合い、友達の説明のよさに気づき、感想を伝え合うことができる。</p>	11 (本 時)		11 (本 時)	<p>・友達の説明を聞き合い、一人一人の説明の違いや工夫のよさに気づき、感想や意見を伝え合うことができる。</p>	
	<p>・説明カードを修正したり、説明カードを基に、説明する練習をしたりする。</p>	12		12	<p>・「終わり」の段落を修正したり、全体の文章を清書したりすることができる。</p>	
<p>1年生にわかるように説明カードをもとに音声表現で説明している。</p> <p>(説明・発表)</p> <p>・説明カードをそのまま読まないで相手を見たり実物を見せたりしながら説明させる。</p>	<p>・1年生の友達におもちゃの作り方を順序よく、絵や実物と対応させながら説明することができる。単元の振り返りをするすることができる。</p>	13		13	<p>・学級内で、説明発表会を開き、感想や意見を述べ合う。</p> <p>(他校の3年生に「食べ物のみつ」について清書した「食べ物ブック」を送り、もらった感想を読んで、単元の振り返りをするすることができる。)</p>	<p>互いの考えの共通点や相違点を考え、司会などの役割を果たしながら説明発表会を開くことができる。</p> <p>(説明・発表)</p> <p>・話型を見せながら説明発表会を進める。</p>

7 本時の指導

(1) 目標

- ・説明を発表し合い、友達の説明のよさに気付き感想を伝えたり、交流から自分の説明を振り返ったりすることができる。
- ・聞き手がおもちゃの作り方がわかるように事柄の順序、写真と文章の関連に着目しながら説明することができる。

7 本時の指導

(1) 目標

- ・説明を発表し合い、一人一人の表現の違いや工夫のよさに気付き、感想や意見を伝えたり交流から自分の説明を振り返ったりすることができる。
- ・聞き手が自分の調べた内容がわかるように中心となる語や文をとらえて段落相互の関係に着目しながら説明することができる。

(2) 展開

■ はT1の直接指導 □ はT2の直接指導と間接指導

段階	第2学年				第3学年				段階
	評価・準備物 T2の支援	・期待する反応 教師の支援	・学習活動 主発問	形態	・学習活動 主発問	・期待する反応 教師の支援	評価・準備物 T2の支援		
つかむ (7分)	・紙板書	相手意識を確認する。 (おもちゃを作って1・2年生と遊べるように、1年生にわかりやすく話して作り方を説明しよう。)	・学習計画を振り返り課題を把握する。 ・どんなことに気をつけてせつめいすると、わかりやすいかこうりゅうしながら考えよう。	T 1	T 1	・学習計画を振り返り課題を把握する。 ・どんなことに気をつけてせつめいすると、わかりやすいかこうりゅうしながら考えよう。	相手意識、目的意識を確認する。 (他の学校の3年生が読んだときに自分が調べたことが伝わるように、食べ物ブック(説明を書いた文章)に書きまとめて説明しよう。)	・紙板書	つかむ (7分)
ふかめる (30分)	・事前に友達の説明カードを読んでおかせる。 T2 ・2年生の交流の場面で支援する。交流が進まないときに、質問したり感想を話したりする。	説明のポイントを確認する。 順序を表す言葉をつかう。 写真と言葉を合わせる。 大きさや形について詳しく書く。 ・これから、おもちゃの作り方を説明します。 ・順序がわかる言葉を使っていたので1年生にもよく分かったと思います。 ・は何センチに切ればいいのですか。	「一本の木」と「うごく虫をつくろう」で学習したときの説明で大事なこと(説明のポイント)は何でしたか。 ペアで、交流の視点(説明のポイント)にそって交流しましょう。 ・友達の説明の仕方のよいところを伝え合う。わからないところは、質問する。	T 1	T 1	「すがたをかえる大豆」で学習したときの説明で大事なこと(説明のポイント)は何でしたか。 ペアで、交流の視点(説明のポイント)にそって交流しましょう。 ・友達の説明の仕方のよいところを伝え合う。わからないところは、質問したり、アドバイスしたりする。	説明のポイントを確認する。 事例の順序を工夫する。 接続語をつかう。 段落の初めの文は、姿を変える工夫を短く書く。 司会を中心に交流を進めさせる。 ・段落の初めに食べ方の工夫が短くまとめられていたので分かりやすいです。 ・よく知っている食べ方からあまり知らない食べ方の順にすると読んでいる人なるほどと思うと思います。	・事前に友達の説明書を読んでおき、感想や意見の書き込みをしておく。 ・交流するための話型	ふかめる (30分)

<p>T 2</p> <p>・修正箇所 に気付くよう に個別指導 をする。</p> <p>具体的評価 規準</p> <p>順序を 表す言葉 を使い、絵 や写真と 対応させ ながら説 明するよ さに気付 いている。 (ワークシ ート・発言)</p> <p>支援を要す る児童への 手立て</p> <p>・前に学習し 自分が書 いたワー クシート を見て、既 習内容を 想起させ る。</p>	<p>修正したい箇所 を確認させ、新 しい説明カード に書き直しをさ せる。</p> <p>予想される修正箇 所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順序を表す接続 語を付け加える ・長さや大きさの 具体的な数値を 付け加える。 ・作り方の写真に 合わせて順序よ く説明してい るから分かりやす いと言われまし た。 ・長さ、どこを 貼り合わせるか を付け足した説 明カードにしま した。 ・自己評価をして やを書く。 	<p>・友達の発表や感想 を参考にしなが ら、自分の説明を どのように修正 したいか考えて 修正する。</p> <p>説明の仕方、い いですねと言わ れたところや、も っとよくなりたい ところはどこで すか。</p> <p>・修正したことを発 表し合う。</p> <p>説明のポイント にそって説明の 文を書いたり修 正したりするこ とができたか、振 り返りましょう。</p>	<p>T 2</p> <p>T 1</p>	<p>T 1</p> <p>T 1</p>	<p>・友達の発表やアド バイスを参考にし ながら、自分の説 明をどのように修 正したいか考えて 修正する。</p> <p>説明の仕方、質 問されて気付いた ことや、もっとよ くなりたいところは どこですか。</p> <p>・修正したことを発 表し合う。</p> <p>説明のポイントに そって説明の文を 書いたり修正した りすることができ たか、振り返りま しょう。</p>	<p>児童が書いた説明 の文に、修正した い箇所の挿入をさ せ、新しい用紙に 書き直しをさせ る。</p> <p>予想される修正箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例の順序を入れ かえる。 ・段落の初めを要約 文にする。 ・接続語を付け加え る。 ・事例の順序を、み んなが知っている ものから、あまり 知らないものに説 明すると読む人が なるほどと思うと アドバイスしても らったので、説明 の順序をかえまし た。 ・自己評価をして、 やを書く。 	<p>具体的評価 規準</p> <p>接続語を 使い段落の 事例の順序 を工夫し要 約して説明 しているよ さに気付い ている。 (ワークシ ート・発言)</p> <p>支援を要す る児童への 手立て</p> <p>・前に学習し 自分が書い たワークシ ートを見て、 既習内容を 想起させる。 (事例の説 明の順序の 工夫・段落の 要約の仕方)</p>	
<p>ま と め る (8 分)</p>	<p>・紙板書</p> <p>・説明のポイント を使って説明す ることができま した。</p> <p>友達の説明を聞 いたり、自分の 説明を読み直し たりすることで 分かりやすい説 明の仕方を考え ることができた ことを確認す る。</p> <p>次時は、説明の 練習をすること を予告する。</p>	<p>学習をまとめまし ょう。</p> <p>・じゅんじょが 分かることば をつかい、絵と 話を合わせて、 くわしくせつ めいするとわ かりやすいで す。</p>	<p>T 1</p> <p>T 1</p>	<p>T 1</p> <p>T 1</p>	<p>学習をまとめまし ょう。</p> <p>・だんらくの初 めにせつぞく ごをつかい、す がたをかえる 工夫を短くま とめたり、じゅ んじょをくふ うしながら説 明するとわか りやすいです。</p> <p>交流しながら学習 してよかったとこ ろはどこですか。</p>	<p>・説明のポイントに そって書き直すこ とができました。</p> <p>初めに書いた説明 の文と修正した文 を比較したことで 分かりやすくなっ たことを確認す る。</p> <p>・交流したことで自 分では気付かない ことを教えてもら いました。</p> <p>次時は終わりの段 落を見直し清書す ることを予告する</p>	<p>・紙板書</p>	<p>ま と め る (8 分)</p>

「おもちゃの作り方をあいてにわかるようにせつめいしよう」
二年生のかだい

どんなことに気を付けてせつめいするとわかりやすいかこつりゆうしながら考えよう。

せつめいのポイント

じゅんじょがわかることばをつかう

絵と文をあわせて話す

長さや大きさをくわしく教える

ふりかえり

じゅんじょがわかることばをつかい、絵と話をあわせてくわしくせつめいするとわかりやすいです。

「食べ物ブックを作って、あいてにわかるようにせつめいしよう」
三年生のかだい

どんなことに気を付けてせつめいするとわかりやすいかこつりゆうしながら考えよう。

せつめいのポイント

事わいのじゅんじょをくふうする

だんらくのはじめは、みじかくまとめる

せつぞくをつかう

ふりかえり

だんらくのはじめにせつぞくをつかう、すがたをかえるくふうをみじかくまとめたり、じゅんじょをくふうしてせつめいするとわかりやすいです。